

< 報道発表資料 >

(経済・大学同時)

令和 7 年 5 月 20 日

(地独) 京都市産業技術研究所知恵産業融合センター
 京都市産業観光局スタートアップ・産学連携推進室

令和 7 年度評価技術講習会 - 見て学ぶ材料分析の基礎 - の実施について

(地独) 京都市産業技術研究所では、地域の特色をいかした産学官連携拠点である京都バイオ計測センターと連携して、地域企業の技術者や大学の研究者などが材料分析の基礎を体系的に学べる講習会を開催します。

	日時	シリーズ	講義及び実習	
第 1 回	令和 7 年 6 月 25 日 14:00~16:00	材料組成 分析	走査電子顕微鏡観察	表面観察、元素分析
第 2 回	7 月 23 日 14:00~16:00		蛍光 X 線分析法	各種材料の無機成分分析 (Fe、Ni など)
第 3 回	8 月		X 線回折法	各種材料の結晶構造測定
第 4 回	9 月		フーリエ変換赤外分光分析法	有機材料 (ポリプロピレン、ナイロンなど) 判別
第 5 回	10 月	光学特性 評価	分光測色測定	染色物の色相、色彩、明度の測定
第 6 回	11 月		蛍光分光測定	蛍光物質の励起および蛍光スペクトル測定
第 7 回	12 月		紫外可視分光測定	紫外~近赤外領域の波長光の透過/反射率測定
第 8 回	令和 8 年 1 月	分離・ 微量分析	ガスクロマトグラフィー質量分析法	有機化合物の測定
第 9 回	2 月		イオンクロマトグラフィー	水溶液中の陰イオン成分の測定
第 10 回	3 月		ICP 発光分析法、ICP 質量分析法	水溶液中の微量金属成分の測定

● 開講日程及び講習内容 (全 10 回)

令和 7 年度は、幅広い分野で活用が期待され、過去の受講者アンケートから開催希望が多かった走査電子顕微鏡、蛍光 X 線分析法などの「材料組成分析」、色彩や蛍光などの「光学特性評価」及びクロマトグラフィー関連などの「分離・微量分析」に関する評価技術を取りあげます。講習会では「測定データの見方」など基礎的な事例紹介、開発事例について、デモ測定も行いながら分かりやすく解説します。

- 会場 (地独) 京都市産業技術研究所
(〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 91 番地 KRP9 号館南棟)
※講義のみハイブリッド形式 (Zoom)
- 対象
 - ・企業技術者、大学の研究者など機器を用いた材料分析法を基礎から学びたい方
 - ・分析は外部委託しているが、測定原理から学びたい方
 - ・測定経験はあるが、前処理及び測定法などを再確認したい方 など
- 講師 (地独) 京都市産業技術研究所 研究員など
- 参加料 無料
- 実施方法 対面形式 (講義及び実習) 及び Zoom による Web 形式 (講義のみ)
- 定員
 - ・講義及び実習 (対面形式) : 5 ~ 10 名
 - ・講義のみ (Zoom) : 50 名程度
 - ※対面形式は 1 社 1 名、応募多数の場合は抽選
 - ※抽選の場合、京都市産業技術研究所ユーザーズコミュニティ 参画企業・団体 及び京都市域企業・団体等優先
- 申込方法 「評価技術講習会」 ページの参加申込フォームからお申込みください。
※講習会毎の申込期間・定員などは同ページで随時お知らせします。

<参考 「材料分析」で、こんなことがわかります！>

組織の確認	色彩のデジタル化	耐食性の確認
材料組成分析 錆びにくいステンレスのはずが錆びるのが早い！ 	光学特性評価 各種素材の色彩、色合いを一定にしたい！ 	分離・微量分析 自社で製作した部品の耐食性を確認したい。 
Q: 本当にステンレスなのか? 蛍光 X 線分析法	Q: 色彩を定量的に測定できるか? 分光測色測定	Q: 溶出試験で評価できるか? ICP 発光分析法
A: ステンレスでないことが判明!	A: 色彩の数値化により、工程管理がしやすくなり、品質の向上につながった。	A: 溶出量の違いにより、耐食性の比較検討が可能になった。

<お問合せ先>

(地独) 京都市産業技術研究所

担当：製品化・人材育成支援グループ 南・島村、経営企画室 岡野

E-mail : kikiseminar@tc-kyoto.or.jp

「評価技術講習会」 ページ : <https://tc-kyoto.or.jp/hyokagijutukoshu/>

電話 : 075-326-6100 (代表)



「評価技術講習会」
ページ



京都市産業技術研究所
メールマガジン

講習会の最新情報をお届けします。
是非ご登録ください!



京都バイオ計測センター
ホームページ